烈日の下に一里に亘る大行列

京阪神の勞働團員八萬人大示威運動

◇正午解散して演說會へ

京阪神三都勞働團員總動員を行ひ、八万の勞働者を打つて一團とした大示威運動は、豫定の如く十日午前九時から神戸市會下山を中心として開始された、九日川崎造船の長留、山本兩重役と、中村、淺野外四名の前川崎造船所職工代表者と會見の結果、一も二もなく突放されて職工の不滿を買ひ、又三菱職工團も會社側の不實を憤慨して居る矢先とて兵庫警察部は

巡査全部を狩り出し

更に予石姫路からも應援を賴み、要所要所にものゝしき、警戒を加へた、午前八時川崎造船所の電工、造船、造機、製纖、三菱の鑛動機關車電氣運轉員を始め、神戸製鋼、ダンロップ印刷工の各組合、大阪より聯合會醵下の各組合總兵工廠の二千の向上會員等早朝から木村鋭吉氏に引率されて同所に繰込み、京都の各團體より參加者多く、熱田兵器工場百名の向上會員も應々來神し總勢八万餘、會下山上山下悉く白、青、褐色の勞働服を着けた職工で埋られた、斯くて午前九時半、總指揮官の久留弘三氏

蟻の一里詣

職工二万五千

有史以來の大示威行列に阪神勞働團悉く集る

大正十年七月十日、急ぎ神戸にかける職工大示威行列の當日が來た早朝會下山下に立つて見下せば來るは來るは東西南北谷を埋め嶺を越えて陣太鼓の大旗長旒が幾の幟を飜つて續々と押寄せて來る、午前八時半今日を職の總大將久留弘三氏が紺の袴をかけ絲木製の采配を打振つて

先頭に

立てば先づ參謀通信の一隊之に續き樂隊電工會、川崎造船、同造機、印刷工、川崎同工場友愛會神戸支部の順序で勞働歌の合唱萬歲の叫びを高かしつゝ山を南に大河の決した樣に押出した全員實に二万五千先陣は既に湊川を越えたのに殿りは未だ山嶺を發せず總員に二里に餘つた一方此日の大示威行列を應援せんが爲大阪からは住友伸銅所、大阪鐵工所、大阪印刷工組合、相澤造船、リバーブラサー、尼ケ崎久保田鐵工所を始め廿餘の各團體は夫々會旗を押立てゝ凡そ二千名が神戸驛に到着した夫れを出迎へる爲會下山に集合した川崎兵庫分工場、三菱造船所の一隊が一團となつて長蛇の陣を居留地一帶の地に布き阪神電車で到着した尼ケ崎方面の應援團を迎へ兩者相呼應して萬歲を叫ぶ阪神勞働者の

大集團

は其儘東遊園地へ步武堂々元町通路を練つて湊川新開地で會下山からの一隊と合して大示威行列に合した午前八時半示威行列の先陣を承はつた總指揮官久留弘三氏及び參謀野倉万二郎、前衛指揮官柴田倉大郎等の赤襷姿が川崎本社前に到着した此時造船所では萬一の場合を慮り門と云ふ門、窓と云ふ窓は全部密閉し造船所直屬の

消防組

が本社及び工場附近を警戒して居るばかりで會社側からは誰一人答ふるものがなかつた前衛隊の一行が勞働歌を合唱して靜かになつたカントリークレーンを眺めては意氣更に揚がり再び東河崎町から兵庫濱あたりに折れて入江橋へと先頭部隊が白旗の波を漂はし後續部隊が新開地の上から殺到するあたりさしもの廣い新開地筋も唯見る旗の林と勞働服の波ばかりである午前十一時頃になると翌日の示威行列を續ける事が大變苦しいとあつて後部の大阪勞働組合同盟機械工組合友愛會尼ケ崎支部同武庫川支部の

支部の

住友伸銅同製鋼同鐵鋼所の職工連は暑さと行進の遲さとに堪へ兼ね水を頻張りつゝワッショ〳〵と駈足行進を續めたので示威行列は混亂に陷りかけたが直に秩序整ひ殿りの大阪勞合會の應援團が川崎本社を辭したのは午前十一時四十分頃であつた（十日、神戸發）

外國にも無い整頓振り

縣警察部の取締も宜かつた

賀川豐彥氏語る

大示威行列の參謀役賀川豐彥氏は語る「空前の大示威行列が斯も嚴然として行はれ得たとは全く勞働者諸君が如何に眞面目に今回の問題を考へて居るかを立證するもので一部世間の云ふ如く單に騷ぎを好むものでない事が伺る東京でも恐らく外國でも之程嚴然たる勞働者の運動は未だ曾てなかつたらうと思ふ同時に兵庫縣警察部の此行列に對する取締も機宜を得てゐたことは實に見上げたものである」（十日、神戸發）

當分日給五割増を通告す

三菱電機無事

三菱電機株式會社職工代表委員は九日午後一時賃錢増額外五項の要求書を西山參事の手許に提出すべく協議中會社側では早くも嗅ぎつけて正午幹部會議を開き意外な永然に防ぐべく九日から出勤職工全部に對し當分日給五割増にするに決し午後一時半此旨職工全部に發表し若し意外狀態を示した時には直に日給五割増を取消し、罷業の擧に出るやうな時は全然工場を閉鎖する旨言渡したので代表委員は要求書を撤回し職工等は滿足して靜穩に就業することとなつた

全國空前の勞働大示威

三萬の勞働者

神戸市中を行進す

全國の前の神戸に於ける勞働大示威運動は十日盛大に行はれた、此の日午來雨催ひの空が午前七時半頃から晴れ上つて神戸市内の全勞働者を始め大阪、京都方面から驅せ參じた各勞働團體は神戸の意氣を示して紅筆こり〳〵の銀鎖ゆき勞働歌を先頭高く唱して潮の如く會下山に繰込み八時頃には大集團こなり各團體の會旗を立てゝ會下山の森を圍繞する八時半川崎造船電工會を眞つ先に總指揮官久留弘三氏先頭に立つて樂隊の行進曲勇ましく繰り出し川崎造船一萬五千人、三菱造船九千人、神戸印刷工組合百人、川崎兵庫分工場二千人、神戸聯合會、京阪聯合會の順で續く勞働歌に全市を震撼して無慮十餘萬の大集團は一路に萬ら長陣列を作つて川崎本社に向つた

示威の映畫を

全國に持廻る

十日擧行の神戸勞働聯合會大示威行列には京都より大阪から參加するので約二萬人を超ゆるとの

ど友愛會大阪聯合會主事木村錠吉氏は既報の如くこれを記念する爲め大阪及び京都聯合會の承認を經て同行列の出發から歸取に至る迄の光景を活動寫眞に撮つた右に就き木村氏は語る

此の行列は本部其他の一大行列なればこれを記念する爲め活動寫眞に收る事とした譯で當日各團體から選出の人數を浮び其の金を以て勞働團體の一大共同會館を建設したいと思つて居る云々

社長の歸朝迄回答延期

川崎造船の回答

川崎造船所各職工を代表して交渉委員鐵中村、淺野、村瀨、田中、元岡の六名は九日午後一時約一千人の職工の示威行列に送られて會社を訪ひ永留、山本兩重役と會見、電正會の提案に對し萬治氏を經由せしめられたしとの一項を加へたものを川崎造船所職工一同の名において提出したが結局一松社長の歸朝迄待て、待たねばならぬは拒絶す、交渉は受取らぬと會社側で剛ねつけたので委員は工場に引揚げ委員から職工一同に其の旨を傳へた